

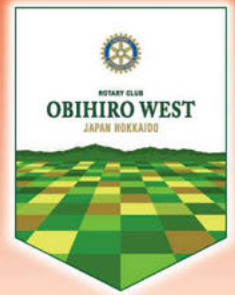


帯広西ロータリークラブ

第2357回例会

会報

2021.9.16



■RI第2500地区スローガン■

ロータリーの素晴らしさを
広めましょう

■クラブ・テーマ■

覧古考新～感謝と恩返し～

ゲスト紹介

帯広三条高等学校スピードスケート部 監督

後藤 陽 様

会長報告

谷脇 正人 副会長

本日は小谷会長、田中副会長不在のため大変僥越ですが、副会長としては初めての会長報告になります。また、アナログ的な自分としてはZOOMでの点鐘、報告で柄にもなく緊張しております。どうぞよろしくお願い致します。



冒頭お詫びします。9月12日家族野遊会を直近で延期し大変申し訳ありませんでした。緊急事態宣言下であり岡田委員長さんはじめ委員会の皆さんにもご迷惑おかけしました。10月3日に延期し制限なく開催したいと思っております。

小谷会長が会長方針の中で「諸先輩の50年の伝統と功績をそれぞれが学んでみよう」と話されておられました。令和4年2月24日をもって50周年を迎える当クラブの設立当時について少し調べてみましたので、今日はそのお話をさせていただきたいと思っております。

1971年1月に帯広クラブ・帯広北クラブの合同拡大委員会を追加クラブの新設について協議されました。その後概ね一年の間に帯広・北両クラブで正式に承認。1972年2月24日に創立総会が開かれ帯広西ロータリークラブが誕生します。帯広クラブで設立の発起人であった石田特別代表、初代会長に就かれた開会長のご挨拶文には新しいクラブ創立への熱い思い、希望が込められています。さて帯広・北クラブから移籍された会員含め31名のチャーターメンバーでスタートした西ロータリークラブ。事務局に設立の当時の資料が今もしっかり保管されています。その資料を見て驚かされるのがいくつもあります。創立総会の次第、初年度の活動報告書、すべてが整然としていることに驚かされました。

今から50年前、パソコンはおろかワープロですらなかった時代に現在とまるで変わりのない資料が残されています。当時あれだけの資料を作るには熱意は勿論ですが、多くの会員が協力し時間をかけて入念な準備をされ、資料を作成したに違ひなく当時の先輩会員の姿が思い浮かびます。本当にすごいことだと思います。また、発足2年目73～74年度は山田内科医院の山田先生が会長、茨木会員のお父様が幹事でした。山田会長の就任挨拶の中に「発足2年目は非常に難しい年、内部が充実しているとは言えない」と誕生したばかりの新しいクラブの運営に重きを置いておられることが感じ取れます。会長の思いを受けて細部まで計画された素晴らしい活動計画

書が作られています。その中でも特に驚くことは一年間のすべてのプログラムの内容まで記載されています。幹事、プログラム委員長を経験させてもらった自分にとって1年先まですべての例会内容が決まっていることに本当に驚かされました。幹事であった茨木会員のお父様はといった事前にどれだけ委員長、会員の皆さんと時間をかけて打合せしたのか想像が付きません。会長・幹事を中心に生まれたばかりのクラブを順調に軌道にのせたいと強く願われていた証だと思われます。

他にも当時の資料の中に興味をひく事がいくつもあります。会長が言われている良き古き時代を知るために皆さんも是非、事務局を訪れ歴史と伝統に触れてみていただきたいと思っております。またあまりない方が良いのですが小谷会長の代わりに会長報告させていただく機会があれば「設立当時の気になるあれこれパート2」としてお話したいと思っております。以上、会長報告とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

会務報告

工藤 正宏 幹事

- ①帯広北RC、9月末まで例会は休会と致します。
- ②帯広南RC、9月20日(月)の例会は、祝日のため休会と致します。
帯広西RC、9月23日(木)の例会は、祝日のため休会と致します。
帯広RC、9月29日(水)の例会は、休会と致します。
- ③帯広西RC、家族野遊会開催のご案内
日 時 10月3日(日)午前11時
場 所 グランピングリゾート フェアリーエンドルフ
※バスご利用の方は、北海道ホテルを10:00に出発します。
- ④帯広西RC、10月7日(木)の例会は、休会と致します。
帯広南RC、10月11日(月)の例会は、休会と致します。
- ⑤RI第2500地区 地区大会開催のご案内
日 時 10月10日(日)午前10時20分
(登録受付9:30)
場 所 釧路市観光国際交流センター
会 費 7,000円(入会3年未満研修会(10/9)参加の場合
は別途2,000円)

**ニコニコ献金**

岡田 英樹 親睦活動委員長

谷脇 正人 副会長

小谷会長不在の為代わりに会長報告させていただきます。よろしくお祈りします。

高田 浩司 国際奉仕委員長

本日担当例会です。よろしくお祈りします。



会長 小谷 典之 副会長 田中 耕吾 会場監督理事 天野 清一 発行：広報委員会
幹事 工藤 正宏 副会長 谷脇 正人 プログラム委員理事 立崎 貴之 委員長 郷 誠一 (副)山口 貴可



例会日/木曜日 12時30分～13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル東館3階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

奥田 頼昌 会員

全快で2回目戻って来ました。又ゴルフ、飲み会頑張るぞ。(大枚)

千葉 清秀 会員

会社移転致しました。心機一転頑張っていきます。

米田 健史 会員

10月3日の家族野遊会にフェーエンドルフを選んでいただきありがとうございます。緊急事態宣言の解除を祈り、万全の感染予防対策で準備します。本日9月16日株式会社そらとキャピタル・ゼンリンの統合から1年が経ちました。その記念すべき日に新入会員の西麻衣子も

卓話させていただきます。これからもどうぞ支援の程よろしくお願い致します。

岡田 英樹 親睦活動委員長

ニコニコ発表させていただきました。また、家族野遊会の案内を送りました。お手数ですが再度の出欠を返信願います。

ニコニコ
献金

9月16日

15,000円

累計

163,000円 (9月16日現在)

新会員卓話

伊藤 公康 会員増強委員長



本日、プログラム前のお時間をお借りして、2名の新入会員の卓話をさせていただきます。



中島 良太 会員

皆さんこんにちは。コマツ道東株式会社の中島 良太と申します。本日は新入会員卓話ということで、自社についてお話しさせていただきますしたいと思います。

はじめに、コマツという会社は、1921年に石川県小松市を本社所在地とし株式会社小松製作所が設立され、今年で創業100周年を迎えております。

古くは農耕用ガソリントラクター、大型の水圧高速鍛造プレス、油圧プレスなどの製造を経て、建設機械への舵切りとなる国産のブルドーザーを開発し、戦後の混乱と激動を乗り越え国内ではトップの建設機械メーカーになりました。

創業から「自ら作り、自ら販売する」方針を掲げてきた小松製作所でしたが、建設機械の国内需要の変化の訪れから国内流通機構再編成に着手し、それまでサービスディーラーだった当社も「販売・サービス代理店」としてディストリビューター化し、十勝小松販売株式会社を立ち上げ、昨年、創立50周年を迎えることができました。

祖父が創立して私で三代目になります。公共工事の減少により大量の在庫車を抱えた苦しい時期もありました。その中で会社として大きく成長することができたきっかけに、コマツの「ダントツプロジェクト」という経営構造改革の方針があります。これは「強みを磨き、弱みを改革」というもので、私たちも、コマツとともにユーザーのニーズに応えるべく商品の開発に携わり、農畜産をターゲットにした「十勝スペシャル」という仕様のホイールローダーを開発し、販売を開始しました。今では新車販売の構成比率の7割が農業関係に変化し、現在も毎年生産工場との会議やユーザー訪問を継続しております。全国的にみても珍しく、地域の産業に深く関わることができた成功事例としてコマツの中で取り上げていただいております。

先代である父親の受け売りではありますが、「ディーラーとしての使命を果たす」というのが私の目標です。コマツは現在、建設機械の、「自動化」「無人化」そして「電動化」に力を注いでおります。例え素晴らしい機械が開発されても、それをサポートする会社がなければ浸透させることは難しいと思っています。私たちが機械のもつメリットを120パーセント引き出せる地域のディーラーとして、今後も地域の産業の支えとなり、様々な社会問題に対し果敢に取り組んでいければと考えております。

以上、ご静聴ありがとうございました。



西 麻衣子 会員

こんにちは。9月から入会させていただきました、キャピタル・ゼンリン株式会社取締役、西 麻衣子と申します。皆様、改めまして、よろしく申し上げます。前回自己紹介させていただいたばかりなのですが、今日は改めて自分のことについてお話しさせていただきます。

私は、生まれも帯広で、稲田小学校、南町中学校、柏葉高校に行き、大学進学の際のタイミングで一度札幌に引っ越しました。小学校、中学校の時は、フィギュアスケートを習っていました。かなり一生懸命、毎日練習していたのですが、その割に大した選手ではなくて(笑)、楽しい思い出より、うまくできなくて辛い思いをした割合の方が多かったな、と振り返ってみて思います。

ただ、他にも習い事はしてきた中でも、フィギュアスケートは7年間やって、習い事の中でも一番長く続けたので、それを通して学んだことはすごく多かったです。他には、水泳、乗馬、大人になってからはフラダンスを習っていました。フラダンスも、けっこう一生懸命やっていた。グルメフンドという自転車イベントなど、自分たち主催のイベントの時に、一緒にチームでやっていたお友達と、ステージイベントで踊ったりもしていました。今思うと、完全に自己満足の世界だったと思いますがとても楽しかった思い出があります。

話は少し戻りますが、高校卒業後、北海学園大学に進学しました。学部は、経済経営だったのですが、その頃興味を持ったのは、プライダルコーディネーターという仕事で、カラーコーディネートの資格とか、テーブルマナーとか、メイクとか、そういうダブルスクールに通って、そっちの方が楽しくて勉強していました。

それで一度ウエディング関係の仕事につきまして、結婚へのあこがれが強くなった時に、自分も結婚したいな、と思うようになり、結婚しました。その後すぐ出産して、一人娘がいるのですが、今高校2年生になりました。

残念ながら結婚生活には向いていなくて、早くに離婚しまして、娘が1歳の時に、シングルマザーとなり、現在に至ります。子供が2歳になるまでは、付きっきりで育児に専念していましたが、2歳になった時から私が仕事するようになって、仕事と育児の両立を目指して、両親や友人にお世話になりながら、ちょっと変わった子育てをしてきたと思います。今では、ママよりもしっかりしているねと言われるくらい、頼もしい娘になりました。

ちなみに、少し宣伝みたいになってしまうのですが、今私たちがやっているこうとしている、冷燻という食品加工の事業があって、今ちょうどマヨネーズを商品化させるところなのですが、そのパッケージデザインに、娘の絵が採用されました。小さい頃から絵が好きなのですが、今回監修してくださっている興水シェフという赤坂の一流シェフに、「あなたが描いたらいいじゃない」と言われ

たのがきっかけで、面白い作品が出来上がりました。商品化したら皆様にもご紹介できると思いますので、ぜひパッケージにも注目していただくと個人的にうれしいです。マヨネーズの味は、本当に、美味しいです。

あと仕事のことで、私の亡くなった父が社長だった時に、何かを教えてもらう、というよりただ同行して見ていた、聞いていた、というスタイルで11年間やってきたので、独特だったと思いますし、その分面白いほど振

り回されながら、いろいろな経験をしてこられたことはありがたかったな、と今は思っています。

今は株式会社そらと経営統合して、新たな組織で仕事をしていますが、そんな自分の経験を活かすことができるように、これからも頑張っていきたいと思っています。

西ロータリークラブでも、何かのお役に立てるよう頑張りたいと思いますので、皆様どうぞよろしくお願い致します。

◆プログラム

高田 浩司 国際奉仕委員長



皆さんこんにちは。国際奉仕委員会の高田です。今回の例会では、今年1月に行われたスピードスケートインターハイで帯広三条高等学校を58年ぶりに日本一に導いた監督、後藤 陽氏をゲストに招いてご講演いただきます。4連覇中の王者白樺学園を破っての快挙に、公立高校でも全国で優勝できることを証明されました。後藤監督は世界で活躍する選手を胸に指導されています。担任の先生としても熱血指導で生徒にも非常に人気のある方です。ちなみに私の息子も担任の先生でありました。それでは後藤監督よろしく願い致します。

「世界で活躍する選手を」

帯広三条高等学校スピードスケート部 監督 後藤 陽 様



皆さん初めまして、ご紹介いただきました帯広三条高等学校スピードスケート部監督の後藤です、よろしくお願い致します。普段生徒の前で話すことは慣れているのですが、諸先輩を前に話すのは初めてなので、皆さんに上手く話せるか分かりませんが一生懸命話しますので、短い時間ですがよろしく願い致します。本日はパワーポイントに沿ってお話をさせていただきます。

今回、58年ぶりの日本一を果たしましたが、私は常に世界を意識して戦っています。その関係でお世話になっている十勝から世界で活躍する選手を、という内容でお話しします。本日は4つの柱の中でお話しさせていただきます。一つ目は「自己紹介」、二つ目は「普段の生徒の接し方と指導方針」、三つ目は「大会で結果を残すために普段私が力を入れていること」、四つ目は「58年ぶりに全国優勝した道のりについて」をお話しいたします。

まず自己紹介ですが、私は北海道の釧路の隣にある標茶町出身です。そして標茶高校を卒業しました。標茶高校は敷地面積が日本一です。帯広農業高校が全国2位となっています。標茶高校は敷地内に川があり、魚が釣れたり、鶴や鹿も来ますし、たまに熊が出たりとあらゆる動物が敷地内に現れるという非常に広大な学校で3年間学びました。そのあと体育の教員を志望しておりましたので日本体育大学に進学しました。4年間スピードスケートをみっちりやり、今の指導者の基礎となる部分を学びました。採用試験に受かり、最初の赴任先が十勝の池田高等学校で、10年間スケート部と担任業務をやりました。今三条高校にいますが、実は池田高校に時代に出会った2名の先生から多くのことを学びました。その教えを発展させていただいております。

白樺高校を破って、ということですが、その当時指揮を執っていたのが坂井俊行先生という偉大な方がおられて、オリンピック選手を三十数名輩出し、インターハイも毎年アベック優勝するような大監督でした。最初はその先生から盗めるものは全て盗もうと。言葉は悪いですがストーカーのように、この先生が何を言うのか、ずっと横で聞いて学びました。もう一人が池田高校の時に一緒にやらせていただいた、のむらまさお先生です。のむら先生は現在芽室高等学校でスケートを指導しています。この2名の先生から学びを得て、そこからご縁をいただき帯広三条高校に異動し、今年で16年目となります。その間最初は陸上部の顧問をやっていましたが何とかスケート部の監督をやりたいと、現在やっています。私の実績としてインターハイの優勝回数は18回で、池田高校時代の優勝回数、三条高校の優勝回数を合算しております。現在全日本ジュニアの強化コーチもやらせていただ

いており、ジュニアの日本代表に帯同することもありますし、合宿等にも参加しております。私の座右の銘は「我以外皆我師也」で、私以外、生徒や先生、さらには本日も講演させていただいている帯広西ロータリーの皆さんなど、私が関わっている方々から多くのことを学び私自身も成長していきたいと考えています。この言葉は卒業生や在校生にも伝えていきます。本日は私の言葉から学んでいただくかもしれませんし、私自身も皆さんから学ぶ機会があると考え、この場にてお話しをさせていただきます。

パワーポイントにある写真ですが、一緒に映っている方は全国大会で勝たせてもらった生徒です。この生徒は全国大会で2年連続優勝しました。3年生の2月にはアメリカのソルトレイクシティで行われた世界ジュニアの日本代表に選ばれ、日本人として500メートルで初の優勝を果たした選手です。ただこの選手は中学校時代、特に目立った活躍はなく、中学校の時は全国8位という成績で本校に入学しました。私はこの生徒が入学して、初めて言った言葉は「日本一にしてあげるよ」と「3年生の時に世界ジュニアで優勝しよう」と伝え、3年計画でこの生徒を育てました。もちろんその他にも思い出に残る生徒はたくさんいますが、世界チャンピオンになった生徒なのでこの写真を選びました。

次に私の指導方針をお話しいたします。まず私の目標として一つ目は「世界で活躍する選手を育成する」です。これはジュニア期だけに限らず、大学やシニアに行っても成長できるような指導をし、世界の舞台で活躍できる選手を作りたいと考えています。高校のカテゴリーでは3年しか教えることができないので、その中で私は何をするかというと、将来的に世界に通用するテクニックを重点的に教えます。ですので高校時代に結果が出る選手もいますし、大学や社会人になってから世界を舞台に活躍する選手もいます。私はその基礎となる部分を作る指導を行っています。二つ目は、世界で一番美しいスケートティングを身につけさせたいと考え指導しています。スピードスケートはいかに早くゴールに駆け抜けるかという競技なので、美しいスケートティングではなくてもゴールに早く辿り着ければ世界一になれる。しかしながら、私はその中でも世界の誰もが認める、みんながあの人々のスケートティングを真似たいと思っていただけるような美しいスケートティングを身につけさせたいと思っています。私はアプローチの仕方として、誰よりも早くゴールするのではなく、誰よりも美しいスケートティングを身につけさせることで、結果誰よりも早くゴールができるという様に考えています。代表例としては長嶋圭一郎という2010年のバンクーバーオリンピックで銀メダルを取った

選手がいます。この選手は私が池田高校時代に教えた選手です。長嶋の形容詞は世界で一番美しいスケーティングと言われていました。私は第2、第3の長嶋を作る指導を心掛けています。この2本を柱にして指導を行っています。

次に普段生徒に接している中で気を付けていることを紹介いたします。まず一つ目は「常に前向きな発言をする」ということです。私が指導者を志すにあたり、過去の私自身が良くない例だと思っており、良くなかった自分を参考にしています。私は現役時代大した成績を残していません。振り返ったときにネガティブな発言ばかりをしていました。ですから常に前向きな発言をすることで、私自身の人生も大きく変わったことから、生徒の前では前向きな発言をし、時にはマスコミや他の監督の皆さんにも大きなことを言って自分自身にプレッシャーをかけるなどしています。いざ試合になると不安になることはありますが、その時でも生徒の前では後ろ向きな発言はしないように心がけています。二つ目は「レースのスタートラインに立つまでに完璧な状態をつくってあげる」ことです。私は指導者ですから、レースが始まってしまうと私は応援団の一人にしかたれません。ですから私ができることはレースのスタートラインに立つまでに完璧な状態をつくってあげることだと考えています。完璧な状態をつくってあげて、レースが始まれば応援の一人として応援する。そして、例えば私は試合が終わった後、選手に今日の出来がどうだったかと尋ねるとほとんどの人は自分が悪かったスケーティングの話をする。だから私は応援団の一人として、もし生徒が最下位を取ったとしても、まず良かった点を見つけてフィードバックをする。次にダメだったところの課題を伝えるようにする。私はレース前までが仕事なので、試合が終わればどんなに良くない成績だったとしても必ず良い部分を見つけてフィードバックをしようと気を付けながらレースに臨んでいます。

三つ目は「指導者の自己満足だけで生徒を指導しない」です。レース前の選手は必ず不安になります。指導者も不安になります。特に大切な試合では1週間、1か月、ややもすると1年くらい睡眠不足になるような不安に襲われます。しかしながら指導者の不安を打ち消すためにたくさん練習を強要するのは間違っていると考えています。私は自分の不安を打ち消すような、自己満足のための練習を強要することはありません。だから生徒にはしっかりと休みを与える。試合前でもそうしています。しかしながら、これは生徒が私の意図を理解していることが前提で、信頼関係があるからできることです。ですからそのためのコミュニケーションはしっかりと図っています。今述べたこの3点を特に気を付けて選手と接しています。

次に大会で結果を残すために普段私が力を入れていることですが、一つ目は「スカウティングを念入りに」です。スカウティングというと選手を獲得するような意味合いと認識されているかもしれませんが、そうではなく対戦相手を分析するという意味で最近良く使われている言葉です。このスカウティングをスケートに当てはめると、対戦相手だけではなく、試合会場や一緒に滑る選手とどのようなレース展開にしていけるか、この部分はどの指導者よりも念入りにやっています。私は世界を見ているので、世界の情報にもアンテナを張り、海外の選手のタイム等を把握し、指導している生徒が今世界でどのレベルにいるのかを把握するようにしています。また国内リンクの状況やライバルの状況も把握するようにしています。

二つ目は「選手には与えられた条件でやりましょう」と伝えていきます。これはどういうことかという、三条高校は文武両道を謳っている、スケートの練習だけではなくそれ以外の勉学もやらないといけません。当然宿題もあります。他の学校とは違う環境なのかもしれませんが、それを羨ましがらるのではなく全てのことを受け入れるように伝えていきます。不満を言っても何も解決されません。例えばスケートの試合で悪天候だったとして

も結果が変わるわけではありません。だからこそ全てのことを受け入れないとだめだと。今コロナでリンクが使えなくなったりもします。生徒の中で焦りはありますが滑れなくてもできる練習をしよう、と常に与えられた条件でやるようにしています。

三つ目は「常に進化を求めろ」ということです。生徒は過去がどうだったなど、過去に拘ることを言うことがありますが、練習道具や練習、テクニックにしても日々進化します。過去に囚われず常に進化していくように伝えていきます。私は成長を妨げるもの一つは慣れであると思っています。慣れが成長を妨げると思っているので、去年日本一になったから同じトレーニングで来年も優勝できる、ではなく慣れを作らない練習方法で進化を促しています。常に新しい自分を求めていくように伝えていきます。私が自信をもってやっていることです。

全国優勝までの道のりですが、三条高校は昭和35年から3年連続3連覇した経緯があります。昭和40年の学校対抗2位を最後に低迷していききました。昭和45年愛好会へ降格しました。その後昭和51年、帯広西ロータリーの会員でもある、鳥せい中央店の店長をやっている柳沢会員が三条高校に入学しました。最初は違う部活に入学していたのですが、スケートにスカウトし全国大会で入賞し、全国3位になりました。その大会を最後に本当に低迷し廃部になりました。そこに私が2006年に赴任し、最初は陸上部で指導をしていましたが、2009年の4月、男子1名女子2名でスケート部が副部として再スタートしました。2021年の1月に58年ぶりに優勝を果たしました。これが全国大会までの道のりとなります。今回全国大会で優勝のターニングポイントは平成29年であると考えています。選手の人数はそんなに変わっていませんが、平成29年に北海道中学校大会もしくは全国中学校大会で入賞した選手が三条高校に3名ずつくらい入ってくるようになった。有望な選手が入るようになった平成29年がターニングポイントになったと考えています。

2020～2021シーズンの取り組みは、コロナにより大きく変更いたしました。特に10月に全日本距離別選手権があり、前半戦のワールドカップの選手を選考する大事な大会ですが、コロナで練習ができなかったため、この大会にエントリーをせず練習に充てることにしました。10月に他のライバルがその大会で勝負している間、帯広に残り必死に1カ月間練習しました。その結果が1月に出したのだと思います。

この写真は部員全員で撮ったもので、全国大会で優勝した写真です。男子が総合優勝でクローズアップされていますが、実は女子も総合3位で、少ない人数、タレント不足であったものみならず頑張って3位を取ったことは素晴らしいことだと思っています。優勝するためには選手の頑張りもそうですが、同様に選手を支えてくれている保護者であり、十勝オーバルという素晴らしい施設もあるし、十勝の大自然がオフシーズンのトレーニングを支えている。そう考えると、世界に誇れる練習環境が十勝にあると思う。三条高校に限らず、白樺高校、帯広南商業高校、池田高校など、世界で活躍する選手を毎年輩出する基盤が十勝にはあると考えています。ライバル校と我々はこれからも切磋琢磨し、一人でも多くの選手を世界に輩出し、日の丸のワンプを着て滑ってもらいたいという思いをもって、これからも活動していきます。ご清聴ありがとうございました。

